



チラー



発電機



受変電設備



福岡大学病院

Fukuoka University Hospital

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号

ホームページアドレス▶ <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp>

施設
(新本館)概要

建築面積: 6,301.97㎡

延床面積: 51,392.94㎡

階数: 地上12階
地下1階

構造: 鉄骨造
一部鉄筋コンクリート造
基礎免震

病床数: 618床



「稼働からまもなく1年が経ちますが、
大きなトラブルもなく良い状況が続いています」

＼ 九電に決めた ＼

3つのポイント

- 1 BCPに対する強靱性
- 2 会社としての信頼性
- 3 省エネ・ランニングコスト削減

本館の老朽化に伴い、新本館の建設工事がスタートしたのはコロナ禍の2021年。同年に開催された東京オリンピックなどの影響もあって高騰していたインシヤルコストを抑えるために、エネルギーサービス導入を決めたそうです。「自前で所有するよりも少しかコストは上がりますが、それ以上のメリットが得られると判断しました。コスト削減は大事ですが、それ以上に災害拠点病院として、(電気・ガス・水道の供給停止による)「医療を止めない」強靱性や、メンテナンス

を全てお任せできる点、会社としての信頼性を重視して、エネルギーサービス事業者を選定しました。その結果、九電グループと他社の共同事業によるエネルギーサービスを採用させていただきました。」

人の“勘”に頼らない 自動制御で省エネに寄与

「既存の熱源設備は自前で所有し管理していたため、どうしても人の勘に頼ってしまう部分が大きかったのですが、エネルギーサービスの導入と、九電グループのノウハウのおかげでオートマチックに制御することができ、省エネにも寄与できていると感じています。また、チューニングが完了し、設計時の想定に比べエネルギー使用量やランニングコストを削減できた点は大変評価しています。」

声がかからない=最高の評価!?

お医者様や患者様からの室内環境の評価についても聞いてみました。「室温に関するクレームはあったとしても、基本的に褒めていただけることはありません。声がかからない(クレームがない)こと=良い環境を提供できている証拠だと思っています。」



福岡大学 財務施設部施設課・廣瀬さん(左)と前河課長

災害時などにおける停電・ガス停止、その他トラブル発生時にも医療を止めず、その質を落とさない万全の体制がここにあります。



空冷モジュールチラー

複数台導入し、負荷に応じて最適な組み合わせで運用することで、高効率を実現しエネルギー消費を抑えることができます。
また、1台故障しても他のモジュールが稼働できるため、冷温水の供給停止を防ぐことができます。



非常用ガスタービン発電機

停電時に起動しエネルギーサービス設備に電力を供給します。迅速な起動により、設備の運転に支障をきたしません。



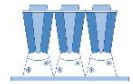
受変電設備

受変電設備には業界トップランナーの変圧器を採用。電力系統は二重化しているため、電力供給が途絶えることを防ぎます。

エネルギーサービス設備概要

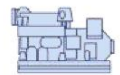
■ 空冷モジュールチラー

冷房能力180kW ×26台
暖房能力180kW



■ 非常用ガスタービン発電機

発電能力1,250kVA×1台



■ 受変電設備

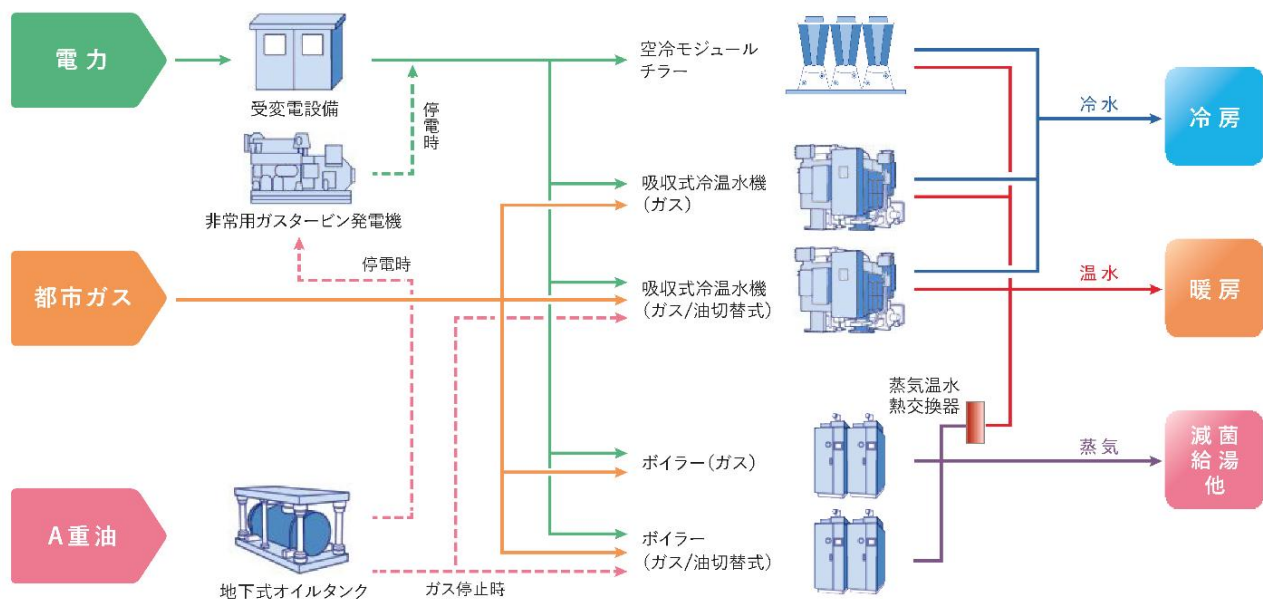
変圧器容量750kVA×5台



■ 24時間遠隔監視



各設備で異常が発生していないか、24時間体制で監視。緊急時にはスタッフがすぐに現場に駆けつけます。



エネルギーサービス範囲(他社分含む)

記者の目



災害拠点としても福岡市の中核を担う福岡大学病院は、病院の機能(いかなる時も医療の質を落とさずに提供すること)の維持と省エネ&ランニングコスト削減という課題を抱えているが、その解決を担っているのがエネルギーサービスです。人の勤に頼らない自動制御と、停電やガス停止時などにも対応できる強靱性(BCP)で病院の価値もますます高まりそうです。

お問い合わせ



インターネットからのお問い合わせはこちら
ご相談・お見積もりは無料です



ウェブサイトはこちら



九州電力
ずっと先まで、明るくしたい。

発行/2026年3月